

## 1月21日(土)群馬地域リハ研究会 開催!!

12月12日より参加受付開始

第4回群馬地域リハビリテーション研究会を、平成18年1月21日(土)に開催しますので、概要をお知らせします。是非とも多数の皆様のご参加を期待しています。参加費は無料ですが、事前受付をお願いします。詳しくは県支援センターのホームページ(<http://www.grsc.biz/>)をご覧ください。チラシのPDFファイルをダウンロードできます。ネットでの参加申込みは、12月12日より群馬リハネット事務局のホームページ(<http://www.orahoo.com/grn/>)から可能です。なお、当日空席がある場合は、申し込んでいなくても参加できますが、準備の都合上、なるべく事前申込みをお願いします。

県地域リハ支援センター長 酒井保治郎

日時：平成18年1月21日(土)14:00～18:30

場所：群馬県社会福祉総合センター(大ホール)

主催：県地域リハ支援センター・群馬リハネット

**報告** ・介護予防が求められる中での地域リハビリテーション  
・講師バンクの紹介

**講演** ・ 広島県における地域リハビリテーションの現状と今後の課題」

公立みつぎ総合病院 副院長 林 拓男 先生

広島県の公立みつぎ総合病院では早くから「寝たきりゼロ作戦」や維持期リハビリテーションにおける保健福祉総合施設や老人保健施設など、地域リハビリテーションに取り組み、県支援センターかつ広域支援センターとして活動をしてきた。その中で、様々な課題が山積しており、その話も踏まえて地域包括ケア、介護予防システムの現状や今後の展望について講演していただく。

**講演** ・ 「食べる楽しみを取り戻すために 介護予防の視点から 」

NTT東日本 関東病院 リハビリテーション科部長 稲川 利光 先生

嚥下障害の予防や治療に役立つことを願って、嚥下体操の「ガブっと・モグモグ・ゴクン体操」というタイトルのビデオを作製。お年寄りが毎日楽しく体操をしてくれるように、子供たちがモデルになってユニークな内容のものに。そんな話も混ぜながら、食べることを焦点に、予防の視点を含めて、地域の様々な職種の方々に向けて、難しい内容をわかりやすく講演していただく。

## 介護保険制度改革における介護予防推進の取り組み 予防重視型システムへの転換をめざして

群馬県高齢政策課介護保険室改革推進グループリーダー 山田順一

本年6月22日に国会で介護保険法が改正され、 今回の改正における最大の課題は、介護保険制度の「予防重視型システムへの転換」です。しか  
来年4月から実施されることになりました。

し、法律は改正されましたが、実際の運用に関する詳細は、その後、厚生労働省における様々な検討会や研究班での検討を経て、徐々に情報提供が行われております。

こうした中、県では、来年度に向けて早急に体制づくりを図る必要があると考え、県内13団体の皆さんの積極的な協力（＝ボランティア）を得て、「介護予防推進会議」を発足いたしました。

真夏の8月8日の第1回会議から、月1回、平日の夜に質素な弁当の支給のみでお集まりいただき、季節も秋から冬へと移ろうなか、第4回会議を開催したので、その経過をお知らせします。

まず、会議の目的は、順次提供される最新情報を伝達して、群馬県らしい介護予防の推進体制をどのようにしたら構築できるか、実際に現場で活動されている専門職の皆さんに御検討いただくことでした。

しかし会議では「会議で話し合うだけではダメ。何かをしなけりゃ」ということになり、当面「介護予防推進研修会等円滑開催支援要領」を制定して、研修会の案内や周知だけでなく、講師の派遣や会場の提供などの支援・協力をできる範囲で各団体が協力しあうことにしました。既に、研修会の共催や開催案内のメールでの配信を行っています。（介護予防に関する研修会なら、市町村や事業者、関係団体へ配信しますので、御連絡ください。）なお、今後は、群馬リハネットの講師バンクの充実を図りつつ協働を進めることになりました。

具体的な検討内容ですが、まず「群馬らしい」とは何かということですが、地域リハビリテーションの推進体制の検討と同様に、やはり「ネットワーク型だ！」ということです。県に中核となる組織もない以上、地域で活動する専門職の方々の力を結び合わせて、強力な推進力にするしかありません。

次に「何をするか」です。介護保険制度が生まれて5年が経ち、この間の制度の飛躍的な拡大は目を見張るものがあります。今後は、こうした成果の上で、いかに「質の向上」を図るかが大切になります。そのためには、どうしても欠かせないのがリハビリテーションに関する専門職の協力体制です。そうした支援体制のもとで、事業者が実施する新予防給付のサービスや市町村が地域支援事業として行う介護予防事業が効果的に提供されるとともに、新しく設置される地域包括支援セン

ターの介護予防ケアマネジメントが中立・公正にかつ効果的に実施されなければなりません。

現在、各市町村では、来年4月の地域包括支援センター設置に向けた準備を進めており、センターには保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種が配置されることになっています。しかし、介護予防の専門家は、医師もリハ専門職も、新予防給付で実施される栄養改善や口腔ケアをになう管理栄養士も歯科衛生士も、基本的には配置されません。そうした中で、効果的な介護予防の推進を図れるよう地域包括支援センター運営協議会に関係者が関与して支援体制を構築する必要があります。まさに、これまで進めてきた地域リハビリテーション広域支援センターや地域リハビリ推進協議会が積極的に関わりをもって推進することが重要になります。

具体的な活動事業は、県の来年度予算編成を経て進めることとなりますが、基本的には、介護予防プログラムの協働開発・協働普及、総合的な評価システムの構築、総合的研修体系づくり、協働型の介護予防普及啓発の4つを進めて行くことにしています。

例えば、研修では、介護予防サポーター養成研修（対象：修了後に地域の介護予防活動の推進者となる地域のリーダーの方）や介護予防マスター養成研修（対象：市町村や事業者で介護予防を実施する者）は、カリキュラムを県支援センターで開発し、広域支援センターで研修を実施することを検討しています。

群馬県地域リハビリテーション推進指針の基本方針では、できるところから始め、地域に根ざした協力体制を確立して連携と支援の体制づくりを行い、その結果、介護予防に結びつけることを掲げています。

今後、各市町村で、介護予防推進の支援組織として広域支援センターが地域の関係機関とともに係わって、介護予防の推進体制を構築できるよう御支援をお願いいたします。

### 残り3圏域の活動開始

渋川圏域は渋川中央リハビリ病院、沼田圏域は内田病院、太田・館林圏域は宏愛会第一病院が10月1日より広域支援センターとして活動を開始しました。

# 県地域リハセンター講師バンク発足

広域支援センターの活動がはじまり、1年の月日が経ちました。各圏域で精力的に講演会・研修会等が開催されておりますが、広域支援センターのこのような活動のおかげで群馬県の地域リハビリテーションは後進県から離脱しようとしているのではないかと思います。しかしながら、圏域ごとに得意分野、不得意分野があるようで、私ども県支援センター調査研究部では、この穴埋めをするために、講演・実技指導ができる人材を広い範囲で確保し、広域支援センターなどに派遣できるよう、講師バンクの作成を進めてまいりました。まもなく公開に至りますのでこの場をお借りして講師バンクの概要を紹介させていただきます。登録講師は推薦制をとらせていただきました。原則として広域支援センターや県支援センター、群馬リハネットの各団体などから推薦された方（専門外の方にも楽しく役立つものが提供できる、講演や実技指導の経験が豊かな群馬県在住・在勤の方）になっております。この講師バンクが利用できるのは、広域支援センターと県支援センター、それと講師推薦をして下さった団体となっています。登録講師は専門領域ごとに大分類（総論、骨・関節系、精神・神経系、内部障害系、介護・予防、テクノエイド、当事者から）および大分類をさらに詳細に分類した小分類（総論内に地域リハシステム、介護保険・介護予防、高齢者福祉など）に

日本リハビリテーション医学会

## 県民公開講座

「リハビリテーションで老後も元気に」

介護予防とリハビリテーション医学

日時：平成18年3月4日（土）

午後1時～午後5時

場所：群馬県民会館小ホール

参加費：無料

県支援センター調査研究部会長 田中聡一  
分けており、さらにタイトル、講演・実技の別ごとに分類・登録されております。この基本情報ファイルを、関係各団体に配布する予定です。講師バンク利用の基本的な流れは 県支援センターに講師紹介を依頼、 県支援センターから登録講師に依頼、 依頼者へ県支援センターから御返事、 依頼者と講師間で直接の打ち合わせ、という順になります。講演・実技指導終了後は所定のアンケートを参加者に行っていただき、講師および推薦団体の今後の参考資料として使用させていただくことになっています。その他、講師へ謝礼や具体的な講師の登録法、依頼法などは「講師バンク運営要領」をご覧くださいたく思います（県支援センター事務局までお問い合わせ下さい）。

最後に御推薦をいただきました団体のみなさま、および登録をいただきました講師の方々はこの場をお借りしてお礼申し上げます。まだ登録講師の分野に偏りがございますので、御協力いただける講師を募集しております。よろしく願いいたします。

富岡甘楽地域リハビリテーション

広域支援センター主催

## 一般公開講座

演題：脳梗塞に心筋梗塞，根っこはみんな動脈硬化

内容：「運動不足」「内臓肥満」「インスリン抵抗性」をキーワードに動脈硬化を基とする成人病予防のためのリハビリテーションについて医療介護予防関係者および一般向けに講演

演者：間嶋満先生（埼玉医科大学リハビリテーション科主任教授）

日時：平成18年2月4日（土）午後2時～

場所：かぶら文化ホール

参加費：無料

三位一体改革で100%県費の活動へ！

## 地域リハ推進事業から

### 介護予防地域リハ推進事業に

編集デスク 山口晴保

本紙に寄せた県の山田順一氏の記事にもあるように、今年度が最終年度だった厚労省の地域リハ推進事業が、来年度から「介護予防地域リハ推進事業」と名称を変更して再スタートを切ります。各圏域に配した広域支援センターが中心となり、県支援センターが支援して行われてきた事業が、来年度は介護予防を重視した事業内容に転換される方向です。

これを受けて、県支援センターでは介護予防の普及に向けて準備を進めています。まずは、鬼石町で行っている住民主導型の筋トレ・転倒予防教室を県内各市町村に広めようと、指導用ビデオ・DVDを作製しております。今年度中には配布体制が整います。この鬼石モデルは、椅子を使って行うので安全、重垂バンドを揃える程度と高価な機器を必要としない、老人クラブなど高齢の住民が主体となって運営するため、市町村職員の

マンパワーは少なくすむ、住民の中から指導者が育ち、さらに普及していく、参加高齢者を中心に介護予防の意識が高まる、地域にコミュニケーションが生まれ地域が活性化する、といった優れた特徴を持っています。

この他、今後市町村が中心となっていく地域支援事業（介護予防事業）を担う「介護予防サポーター」を元気高齢者の中から育成するプログラムも考えています。来年度の本格的実施に向けて、本年度中に研修教材を開発し、パイロットスタディーとして介護予防サポーター研修を開催する予定です。

「高齢者が自立して尊厳を保ちながら安心して暮らせる地域社会」を創るには、元気高齢者が最大の人材です。元気高齢者に「真の自立支援」、「介護予防」、「安心して暮らせる地域作り」を理解してもらい、そして元気高齢者が活動の中心になって、それを行政が支えるような仕組みを作ることが望めます。これからは、市町村や事業者が全てを提供する構図ではなく、高齢者が自ら介護予防や介護に取り組むという視点の変換が大切だと思います。県および広域支援センターには、来年度以降、このような地域活動を支援する役割が望まれます。

なお、12月1日に、「三位一体の改革」で、国から地方へ来年度は6,000億円が税源移譲されることが合意されました。地域リハ推進事業費の2億6千万円がこれに含まれることになり、予算確保が厳しい状況になっています。来年度からは「介護予防地域リハ推進事業」が全て県費で賄われず、来年度どれだけの予算が認められるか予断を許せません。また、今まで以上に成果を厳しく問われるようになるでしょう。

## 事務局便り（H17.8～H17.12）

### 群馬リハネット

平成17年12月現在会員等の状況

\* 加入団体 30 団体

\* 賛助会員 団体会員 2 団体

(株)孫の手・ぐんま（旧ハッピーラブハッピー）と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。

\* 個人会員 1 名

8.11 ニュースレター7号発送

### 群馬県地域リハビリテーション支援センター

8.3 県より群馬県地域リハビリテーション支援センター業務を受託

8.11 ニュースレター3号発送

9.10/11 元気県ぐんま21推進大会出展

10.4 県より業務受託料受領

11.15 第4回群馬県地域リハビリテーション研究会研修部会第1回運営会議

編集デスク

山口晴保 清水尚子

山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp